

【実践報告】

日本の大学生と中国の大学院生との国際合同授業の教育効果(1)

－入試制度・小中高生の生活・大学生活について－

《Practice Report》

Educational effects of international joint classes between Japanese university students and Chinese graduate students (1)  
-About the entrance examination system, life of elementary, junior high and high school students, and university life-

岡田大爾・高益民・三好大樹・李宗宸・岡田寛明・井山慶信

『広島国際大学 教職教室 教育論叢』

“*Hiroshima International University Journal of Educational Research*”

ISSN:1884-9482

第 13 号 抜刷

Off Print of the 13<sup>th</sup> Edition

広島国際大学 教職教室

Issued by Hiroshima International University Teacher Education Unit

2021 年 12 月

December, 2021

## 日本の大学生と中国の大学院生との国際合同授業の教育効果(1) —入試制度・小中高生の生活・大学生活について—

広島国際大学 教職教室	岡田大爾
北京師範大学大学院 国際比較研究院	高 益民
北京師範大学大学院 国際比較研究院	三好大樹
北京師範大学大学院 国際比較研究院	李 宗宸
広島大学 教育学部	岡田寛明
広島国際大学 健康科学部医療経営学科	井山慶信

**要旨**：コロナ感染拡大前から Zoom や WeChat 等の Web 会議アプリで日中の研究者と大学院生達とで頻りにテレビ会議を行い、そのノウハウを日中の国際合同授業に応用してきた。その教育効果を感じながらも、今まで、教育効果を正確に分析していなかった。そこで、今回広島国際大学1年生と北京師範大学の大学院生との入試制度・小中高生の生活・大学生活についての合同授業の中で行われたやり取りとその結果大学生にもたらされた教育効果を詳細に分析した。その結果、知識面・情意面における大きな効果やオンライン授業の対面授業やオンデマンド授業と比較した長所・短所が判明した。

### はじめに

2018年と2019年は、北京・上海・済南・山東・浙江・台湾地域の8師範大学やその周辺の国公立小中学校等を訪問して教育カリキュラムや教科書、教育方法等の比較研究や国際シンポジウム等で招待講演を行った。外国訪問していない間も世界で最も多くの人に使われている WeChat や LINE によるテレビ電話やメール、Zoom 等でお互いに子供たちの能力の調査等について研究者間で議論を行っていた。COVID-19 の世界的流行によって、2020年より実際の相互訪問が困難になった際に、同時に、大学の授業も対面授業からオンラインとオンデマンドの授業に移行し、学生にとっては、対面に比べて最初は操作に不慣れで、不便さによるマイナスのイメージがあった。しかし、このオンライン技術を活用すれば世界の人々とまるでドラえもののどこでもドアのように普段のオンライン授業と同じように簡単につながることを様々な学年の学生に伝え、実際に国際合同授業を体験させてきた。研究面でも国内外の大学院生や教育関係者に対する対面の講義や講演等を筆者達ができなくなったが、Zoom を使って日ごろから手軽に日本の地方の大学生と北京や欧米の大学院生との合同授業やインタビューが可能となり、機会があるごとに研究者や大学院生と一緒に Zoom や SNS を使って話し合ってきたが、教育効果を分析していなかった。今回は、入学したばかりの1年生の教育学の受講者にも当初からもし受講者全員が Zoom の授業に慣れて、かつ、シラバス内容を早めにこなせれば、授業で学習したことをもとに日本の教育システムが本当にうまくいっているのかを客観的に見るために、最後に「大学入試制度」や「小中高の教育」等の内容について国際合同授業を行って、外国の教育学を専攻する人たちと合同で意見交流をする国際合同授業をしたいと思いますがどうですかと提案し、実際に行った国際合同授業の教育効果と課題を分析する。

## 1. 研究目的

次の2点を目的とする。

- 1) 日本と中国でしかも教員・学生 24 名が自宅やゼミ室等から参加する国際合同授業で、お互いの音声・動き・雰囲気を感じ、十分操作でき、質疑が自然にでき、親近感が増したかを明らかにする。
- 2) Zoom を使ったオンライン日中国際合同授業によって感じた教育効果・課題を明らかにする。

## 2. 大学生・大学院生の国際合同授業の教育効果分析の動機と実施

### 2.1 国際合同授業の教育効果分析の動機

中国の国公立大学と小中教育課程と資質能力の育成に関する共同研究<sup>1-3)</sup>を行っていて、中国を訪問する際には大学院生や教員等に特別授業や招待講演<sup>4)</sup>等を行っていた。さらに、COVID-19 感染拡大後は、主に Zoom によるテレビ会議を使って国内外の研究者や大学院生を中心に研究面の会議を行ったり、大学生に授業をしたり、大学生と大学院生との国際合同授業<sup>5)</sup>をしたりしてきた。

国内で普段行うオンライン授業と同様に簡単かつ効果的に国際合同授業を行えることやその効果を世に広め、幅広い世代で手軽に国際的な相互理解が進み、偏見に陥らず、互いに協力する喜びを感じるきっかけにしたいと考えた。そこで、この教育効果や課題を科学的に分析することとした。

### 2.2 大学生・大学院生の国際合同授業の教育効果分析の実施

下記のような方法で国際合同授業を実施し、授業の教育効果を明らかにする。

○参加者：広島国際大学の1年生の一般教養科目「教育学」の履修者 16 名と教員 1 名(岡田)及び北京師範大学大学院比較教育研究科大学院生 5 名と教員 1 名(高)

1)北京師範大学大学院(B)側の参加者(中国は都市農村・沿岸内陸の地域格差が大きいため地域明示)

○高益民教授：比較教育学(世界から招聘、日本の主要大学でも講演。広島大学外部評価委員。

日本の大学で学位を取得。日本語が大変流暢。本合同授業で通訳と司会を担当。)

○比較教育研究科院生 5 名(発言順)

B1：博士課程1年生(当時) 安徽省の都市部と農村部の中間地域出身 男性 両親は天津で出稼ぎ

B2：修士課程1年生(当時) 浙江省紹興市(紹興酒生産地で裕福な地域で有名)の都市部出身 女性

B3：博士課程1年生(当時) 山西省の都市部と農村部の中間地域出身 女性

B4：修士課程1年生(当時) 北海道大学学部卒の日本人留学生 男性

B5：修士課程1年生(当時) ネパールの農村部出身 ネパール人留学生 男性

2)広島国際大学(H)側の参加者(地域格差が大きい中国に合わせて出身地の状況を明記)

○岡田大爾教授：教育学(20年間の国公立の中高理科教員を経て、主に大学の教職課程を担当)

○一般教養「教育学」受講者 16 名(8月30日の参加者 13 名)の中の発言者(発言順)

H1：学部1年生(当時) 広島県 都市部と農村部の中間地域出身 男性

H2：学部1年生(当時) 広島県 都市部と農村部の中間地域出身 女性

- H3：学部1年生(当時) 沖縄県 都市部と農村部の中間地域出身 女性
- H4：学部1年生(当時) 福岡県 都市部と農村部の中間地域出身 女性
- H5：学部1年生(当時) 沖縄県 都市部と農村部の中間地域出身 男性
- H6：学部1年生(当時) 広島県 都市部出身 男性
- H7：学部1年生(当時) 広島県 都市部と農村部の中間地域出身 女性
- H8：学部1年生(当時) 山口県 都市部出身 女性
- H9：学部1年生(当時) 広島県 都市部と農村部の中間地域出身 男性
- H10：学部1年生(当時) 神奈川県 都市部出身 男性
- H11：学部1年生(当時) 広島県 都市部と農村部の中間地域出身 男性
- H12：学部1年生(当時) 広島県 都市部と農村部の中間地域出身 男性

○COVID-19 感染防止のため、教員も学生も自宅やゼミ室からそれぞれ個別に Zoom で参加。発言時以外は、マイク off (映像は表情を知るため常時 on) にして負荷を軽くするように要請。

○コロナの影響で広島国際大学の前期の終了時期が例年より約 1 か月遅れ、日中の様々な学年の参加者全員がそろうために教育学の最終日に近い日曜日(2020年8月30日)10時(日本時間)開始

○実際の授業のやり取り

学生同士は初対面が多かったため、最初は緊張していた。緊張をほぐすために図1の文章から受けるイメージよりも少しおどけた口調でユーモラスに話をした。実は、どうしても8月30日の日曜日に参加できないことが分かっている学生3名のために別日に2回、国際合同授業を先に行った。H1とH9の学生は30日に参加できるにも関わらず、それら2回にもぜひ参加したいと自主的に他の学生と一緒に参加し、30日も含めて合計3回参加し、それ以外にも機会があればぜひ続けて参加したいと申し出ていた。他の学生が緊張気味で最初の質問が出にくそうな雰囲気を感じたため、大変積極的で、3回目で緊張しにくいと考えられたH1の学生から質問の口火を切るように促した(図1)。すると、図2のようにH1の学生は自ら疑問に思っていたことをストレートに質問し、率直で楽しそうな雰囲気に影響され、他の学生からも質問が次々と出された。

高：こんにちは北京師範大学の高です。岡田先生と共同研究でよく話をしています。今日は皆さんの授業に僕の研究室の院生と一緒に参加させてもらいます。今日はいろいろと学び合いましょう。

岡田：高先生ありがとうございます。高先生といつも様々な話をさせてもらっています広島国際大学の岡田です。今日は、日本と中国双方とも知らなかったことがたくさん出てくると思います。とても面白いと思いますのでどんどん質問しましょう。面接のように緊張して、あっという間に終わってしまって、聞いておけばよかったと後悔しないように、折角の機会なので、いろいろ質問するといいですよ。まず、日本と中国の大学入試について何か質問がありますか？最初は3回目で緊張していないH1君から行きましょうかね？(笑い)

図1 <最初の挨拶と導入>

H1：(最初に指名されて、ニコッと笑って)中国では大学入試で浪人生はいるのでしょうか？

B1：中国では 1 級大学、2 級大学、短期大学に分かれています。私の隣の家の男の子は 1 級大学の合格ラインよりも 50 点高かったのですが、希望大学に入れなかったのが浪人になりました。一方、私の妹は短大に進みました。女子の場合は短大でも本人も喜んでいる。男子の場合、個人にとっても、家系にとっても、場合によっては地域にとっても有名大学に入るとは大きなこと。中国では有名大学に合格したら村でお祝いをする。市や県のリーダーがお祝いをすることもある。日本ではどうですか？

H2：私は沖縄出身ですが、大学に合格したら親戚が集まってお祝いをしてくれましたが、地域は別に何もしていません。

広島国際大学側の学生全員に手を上げさせて聞いたところ、薬学部合格した学生 13 人中 4 人は親戚が集まってお祝いをしたが、地域でお祝いすることは全くなかった。

H3：中国では統一試験の後、いくつの進学先の大学等に提出できるのでしょうか？

B2：一部の省は独自試験。今はインターネットで 1 級大学に 5 つ提出できる。第 1・2・3・4・5 希望の順に決まる。昔は紙でやっていたため、1 級大学は 1 つだけで、それが不合格ならすぐ 2 級大学になる。

H4：1 級大学と 2 級大学はどのように違うのでしょうか？

B3：中国の教育部が決めている。1 級大学の中でも 100 点以上の差がある。日本でいうと東京大学も広島大学も 1 級大学。日本のように各大学の 2 次試験はない。1 級の最低ラインに入っている高い大学ばかり書くと、全部落ちることもある。その場合、2 級大学に出願する方法もあるし、浪人する方法もあります。

H5：日本と中国の大学入試は主にどのように違うのでしょうか？

B4：高校の成績をどのように組み込むかが異なる。日本は①一般入試②AO 入試③指定校推薦がある。中国は①が 95%以上、今、一部高校生活の成績や総合素質(資質)の意欲や志望動機を加点する試験的改革を行っている。意欲や志望動機を上海は 2013・2014 年、北京その他では 2019・2020 年試験的に導入している。

H6：日本は子供の自由ですが、中国は親が子供の進学について影響を及ぼして決めてしまうのでしょうか？

B2：中国では、競争が大変激しく、18 年間勉強することに集中していた。将来を考えずにいたので大学入試の点数を見て親の指導がないと進路が決められない学生もたくさんいる。

B1：田舎の出稼ぎ労働者の親は口出ししないが、親の面子や誇りのために頑張っている。一方、男女格差と思うほど考え方が異なり、親は、妹に対しては、普通の学校でいい、幸せならどこでもいいと考えている。

B3：都市部と農村部で大きく違う。都市部には、全体的には就職まで考える教育ママが多いが、逆に忙しすぎて放任の親もいる。農村部は子供の好きなようにという親が多い。

H7：日本には高卒認定試験がありますが、中国にもあるのでしょうか？

B3：中国にも高校認定試験がある。生物の試験、物理の試験等が別々の時期にある。大学に入るまでに取ればいい。

H6：高校の成績が大学へ送られないのか？高校生としては高校の成績を入れてほしいのでしょうか？

B2：昔は 1 回の試験。現在の浙江省は国語・数学・英語の科目は必修、他の科目は選択でき、2 回受けられるようになっている。

B1：今は大学入試が 1 回のみで決まるので 2 回やってよい方を採用してほしい。高校の成績は入れない方がいい。各学校、各先生、親の力等公平に学校の成績を入れることは難しい。

## 図 2 質疑の概要<大学入試に関して>( )内は後の質問で意味を説明

図 2 にあるように、中国の学生、特に男子は一族の面子と誇りをかけて一生懸命勉強する。中国の巨大な人口による入試の厳しさに加え、1 回の統一テストですべてが決まるため、勉強に打ち込む。そして、有名大学に合格すると、親族はもちろん村、時には市や県のリーダーがお祝いをしてくれるといった日本にはない文化がある。

一方、日本には推薦入試や AO 入試、指定校推薦等があり、過度な受験ストレスがなく、自分の進路をじっくり考えられ、それぞれの長所短所やそのようなシステムになった背景等が語られた。

中国では賄賂や親の圧力を防ぐために推薦入試や調査書の点数を加味せず、統一テストを自動採点することで公平性を保っている。統一テストの点数をもとにどの分野の学科に進むかを親と一緒に考えることが一般的であり、18 年間勉強することに集中していたため、親の指導がなければ進路が決められない学生も多く存在する。日本では自分の進路を考えたい一方で、推薦や指定校推薦のような方法をとることができる。しかしあまり勉強しなくても大学に合格できてしまう現実もある。

これらを踏まえ、学生からは統一テストを受験する機会は一度きりであるため、受験できる機会を増やす改革案や日本は推薦入試や AO 入試においても、もう少し本気で勉強するシステムを取り入れたいという意見などが出た。中国側も日本側も時々うなずきながら、お互いの長所を活用し、お互いの短所を克服するため、引き続きじっくり取り組んでいきたいと考えているようであった。

次に中国では、早期から受験が始まっているのではないかと小中学校入試の質問が出たが、予想外に外国資本の私立を除いて公立大学附属小中も含めて学区制が徹底していて入試がない(附属のある学区はマンションの家賃が高い)。国立の師範大学の附属も師範大学の教職員の子供が一般の子供と比べて入りやすいなど日本の競争とは少し様子が違う。また、中国の農村部は昔は小学校は英語がなかったが、今は 1 年生から英語を習う等日本以上に英語を重視していることも分かった。

H7: 日本のように中学校入試や高校入試はあるのですか?

B2: 小学校から中学校へは入試がない。(中国は学区制が厳格で、県立大学附属中学を含めて住んでいる地域の中学校へ進学する。よって附属中学のある学区はマンション等の競争が激しく、家賃が高い。) 中学校卒業時に高校に入りたくない生徒は専門学校(職業高校)へ行き、大学入試は大変重要で、ほとんどは国、一部は省レベルで行うが、高校入試は、各市(日本で言う県)で行うため、市によって科目も政策も違う。

H8: 日本では私立の小中学校受験や中学校受験があるが、中国には私立の小中学校はないのでしょうか?

B2: 中国には外資系(米国や英国)の私立があって試験をする学校もある。公立は小中とも入学試験がない。

H9: 日本の私立大学の附属はすべて上位に進学できるが、国立大学の附属は高校まででおしまいで、大学入試で特別に有利なことはありませんが、中国の国立の附属はどうですか?

高: 北京師範大学の附属幼小中は大学の教職員の子供が優先して入れる。中学校卒業までで、高校は入試で決める。一部の大学附属高校は合格点を一般市民の子供より 10 点下げる場合もあるが無条件では入れない。

B3: 中国では転校すると進学に影響がある。日本は中学・高校生が転校すると大変か?

H9: 附属小学校から別の地域の附属中学校に入れるが定員がいっぱいだと入れず、公立に入った。私立の場合も難しい場合もある。公立から公立に行くのは全く困らない。

附属小学校から別の地域の附属中学校に入ろうとして入れなかった例もある。

岡田: 中国では同じ大学を受ける時にも出身省によって点数が異なるため、大きく条件が変わるが、日本は学習塾等の環境は変わるが、どんな離島に行っても都会に行っても大学受験の条件は全く変わらない。

高: 附属からは附属に行かないといけないのでしょうか?

岡田: 修学旅行をすべて生徒が計画したりするため、附属から附属に転校したい人が多いが、強制ではありません。学習についていくのが大変で、附属や私立から公立に変わることも可能です。

H10: 私は私立の中高一貫校だったのですが、中国にも中高一貫校があるのでしょうか?

高: 中高一貫校はあります。同じ敷地にあるが、試験がある場合とない場合がある。

H7: 小学校は何年生から英語学習をするのですか?

B3: 農村部にいたので昔は小学校で英語を習っていなかったのですが、今は、小学校 1 年生から英語が始まる。

図 3 質疑の概要<小中高の生活>( )内は後の質問で意味を説明

B5：コロナの影響で日本の大学の授業はどうなっているのか？どの課題があって、どのように勉強したか？  
高：ちなみに北京師範大学は、すべてオンライン授業。留学生は特に日常生活でも大学から外に出られない。  
(大学が大変広く、大学の中で生活できるくらいに多くの施設がそろっているが、精神的には不自由。)  
岡田：日本は、①オンデマンド②オンライン③実習・実験は通常の3倍のクラスに分けて少人数で対面授業④  
オプションで対面の少人数授業(ただし、検温・消毒・マスクを徹底して実施)等各県の感染者数の状況や講  
義と実習等の授業の種類、受講者数等によって様々な対応がとられています。  
H11：北海道大学から北京師範大学大学院に留学しようとしたきっかけや留学してよかったことは何ですか？  
B4：北海道大学教育学部で教員研修で資質をどうやって伸ばすかについて研究し、日本では、文科省から予算  
が下りて研修が進むのに対して、中国では横のつながりがよく、学校に行って研究するところに興味があり、  
大変勉強になる。  
B5：中国語を勉強するため、天津師範大学と首都師範大学に願書を送ったら、北京師範大学になった。教育に  
ついて学んだことをネパールで生かしたい。  
H1：中国に留学してびっくりしたことは？  
B4：中国の学生も先生も、勉強にもスポーツにも大変活発でびっくりしている。高先生は幼稚園から大学まで  
教育や研究の幅が広く、大変勉強になる。  
B5：中国滞在が長いのでなれた。中国人の座席取りのマナーにビックリした。今は自分もしている。あと、ど  
こに行っても日本人ですかと聞かれる。このことから中国人の日本人に対する関心が高いことがわかる。  
H12：中国から留学する人は多いのですか？  
B2：今は高校から英語圏の大学に留学する人が増えました。次にヨーロッパ、アジア。  
高：中国全体で1年間50万人が留学する。でも国費留学生は大学院生以上に多い。

#### 図4 質疑の概要<大学の授業や生活、大学生の留学等>( )内は後の質問で意味を説明

岡田：H1の学生等中国に行きたい、留学したいという学生も何人もいますし、今後とも話をしたいという学生  
もいます。また、今日参加されていない院生の〇さんや高先生のことも大変親切でとても尊敬しています。  
お互い教えてもらいたいこと、学びたいことがたくさんあるので今後ともよろしく願いいたします。  
高：日本の青年たちと交流する機会が少なく、大変有意義でした。  
今オンラインのおかげでより簡単に話ができるのでぜひ、また、お話ししましょう。  
また、コロナが終わったらぜひ直接お話ししましょう。  
岡田：日本の小学校や中学校から中国の小・中学校と交流したいという要望も聞いておりますので、オンライ  
ンで学校同士が交流の際などに大学院生や先生方で興味がある方がありましたら、日本だけでなく、中国側  
の方々も遠慮なくおっしゃってください。本日は大変多くの院生さんに参加いただき、広い視野から話がで  
き、大変ありがとうございました。

#### 図5 <最後の挨拶・お礼>

図4のように大学生活へのコロナ感染の影響は、中国の方が留学生の行動制限が大変だとわか  
った。そして、日本やネパールからの留学生の研究や大学生活を聞いて北京師範大学に留学した学  
生に憧れ、自分達も行きたいと考えている学生もいて、興味深く聞く等強い親近感が感じられた。

当初の予定をはるかに超えて2時間ずっと熱心に話が続き、日本時間で12時を過ぎ、日曜日で  
家族が多くいる自宅の食事テーブルから参加している学生もいたため、途中で話を終わらせたが、  
多くの学生は、また、話の続きをしたいと授業後に申し出てきた。

図5の最後の挨拶の後、日本の学生達から自然に「シェイシェイ」と口々に挨拶を交わしてい  
た。授業の終了直後に行われたアンケート(表1~4)でも、次章のように授業満足度が大変高かった  
と考えられ、学期末の授業評価では自由記述の約8割に本合同授業の好印象が記述された。

### 3. 大学生・大学院生の国際合同授業の教育効果検証

参加者16名中3名は、日曜日に参加できないため、それより以前に2回の合同授業を行った。授業直後のアンケート結果で、表1の1)2)3)5)6)の「表情や動きが良く見えた。」や「雰囲気が良い伝わった。」「日本の教員や学生の声がよく聞こえた。」に対してほぼ全員が「そう思う」と答えたのに対し、4)の「中国の教員や学生の声がよく聞こえた。」については3名が「少しそう思う」を選んでいる。これは、全体的には授業がスムーズに進んだものの、自宅から参加した一部の中国の院生の通信状況が時々悪くなって音声聞き取りにくくなる場面があったためと考えられる。

「質問や回答が自然にできた。」についても「そう思う」が14名、「少しそう思う」が2名と肯定的に答える等(抜粋した発言以外にも13名が複数回ずつ発言している。)多くの学生が発言した。

また、「中国に対して親近感が増した。」については、「そう思う」が14名、「少しそう思う」が2名と大変大きな変化と考えられる。その理由を尋ねたところ、次のような意見が述べられた。

「中国の大学の先生と、日本と中国の違いや、先生から質問されたことに答え

ていくうちに、会話の中で笑顔になる機会が徐々に増えていきました。中国は弁当や、給食ではなく、学食か家で食べることや、部活動が日本ほど盛んではないことなど、日本と違う点もいくつか知りました。会話だけでは何となくしかわからないので、実際に行ってみたいと思いました。また、「日本は整理整頓がとてもすごい」とほめていただきましたが、日本も、「整理整頓が雑な子はかなり散らかったりします。」と、そのことを先生に伝えたとき、「一緒ですね(笑)」と言われました。女子のほうやはり整理整頓ができるというのも一緒だとお話したので、親近感も感じました。日本語もとても上手でしたので、会話もしやすく、日本のことを好きでいてくれているというのが分かりました。日本に興味を持ってくれているという面でも、親近感を感じました。」

「もともと私は中国に対して親近感というのは持っていましたが今回の授業により親近感を得ることができました。その大きな理由としては中国の国民性を知れたということにあります。今まで疑問に思っていたことの辻褄がこの国民性によって合うようになったことから親近感が増しました。それと今まで教育に関しては中国と日本では全く違うモノだろうと思っていましたが、私が思っていたことは偏見が強く実際にはそこまで大きな違いがなかったことも親近感が増す要因になったと思います。やはり他国というのは実際に行ったことが無かったりするため偏見を含めて考えてしまいがちですが今回の授業がいい例なのですが、実際に知るということはとても重要なことなのだなと思いました。」

「私は、今まで中国の方と話したことが無かったため、ニュースのことなどしか知らなかった。また、外国にも行ったことが無いため、自分の伝えたいことが本当に伝わるかもとても心配だった。だが、高先生や中国の方、留学生の方とお話をしていくうちに今回の質問の事も含め、教育におい

表1 授業中のコミュニケーション

	4	3	2	1	平均
1)日本の教員や学生の表情や動きが良く見えた。	16	0	0	0	4.0
2)中国の教員や大学院生の表情や動きが良く見えた。	16	0	0	0	4.0
3)日本の教員や学生の声がよく聞こえた。	16	0	0	0	4.0
4)中国の教員や学生の声がよく聞こえた。	13	3	0	0	3.8
5)日本の教員や学生の雰囲気が良く伝わった。	15	1	0	0	3.9
6)中国の教員や学生の雰囲気が良く伝わった。	16	0	0	0	4.0
7)Zoomの授業で映像や音声等の操作ができた。	14	1	0	1	3.8
8)質問や回答が自然にできた。	8	5	1	2	3.2
9)中国に対して親近感が増した。	14	2	0	0	3.9



て日本と似ているところがたくさんあるということを感じた。そのことにより、中国に親近感が増した。今回の授業の参加者の中国の方と私たちが直接、日本語や中国語が通じるわけではないが、お互いが発表しているときに、画面越しでもしっかりと目を見て、話し、聞くことができたと思っている。言葉はお互い分からないが、何か気持ちは通じているのだろうと感じた。」

「中国の入試制度のことや大学生活など様々なことを聞いて、中国に対する印象が変わったことは中国の学生たちは自分が思っていた以上に勉強に熱心で、高い目標を持っているのだと感じました。なぜなら、中国の大学入試制度については今回初めて知りましたが、大学に合格するために大学入試が一つしかないことを聞き、志望する大学に行くにはかなり勉強して一発本番の試験に臨まなければならないし、仮に 1 級大学の合格ラインを超えていても志望する大学に合格できなければ浪人する人もいるほど、志望する大学に対し強い思いを持っているのだと感じたからです。また、今まで自分の偏見ではありますが、中国の方は冷たいイメージがあったのですが、自分たちの質問に対して積極的に回答してくださったり、有名大学に合格すれば村や県で祝ってもらえたりと中国の方たちは暖かい人たちも多くいるように感じました。」と述べているように受験戦争の厳しさとそれに向けて真剣に向かい合っていることにすごいと尊敬に近い印象を持っていると考えられる。また、質疑の中での質問に対する大変丁寧な回答や頑張って有名大学に合格した学生に対して村や市、県がお祝いをするなど中国人の暖かさを感じ、今回の合同授業で中国国民に対する個人レベルでの勉強等の頑張りに対する尊敬とともに親近感がかなり高まったものと考えられる。

次に表 2 に対面授業と比べたオンライン授業の長所・短所についてのアンケート結果を示す。

「外国等遠くにいてなかなか会えない人も話ができる。」「リラックスして授業に参加できる。」の賛同率が高く、「聞こえにくい時に対面授業のように近づくことができない。」「雰囲気伝わりにくい時がある。」(数値は反転させてある)については賛同率が低く、これら 2 つについてはさほど問題を感じていないようである。

また、「周りに他の学生がいないので集中して受講できる。」「周

表 2 対面授業と比べたオンライン授業の長所・短所

	4	3	2	1	平均
1)外国等遠くにいてなかなか会えない人も話ができる。	16	0	0	0	4.0
2)周りに他の学生がいないので集中して受講できる。	6	8	2	0	3.3
3)オンラインだから聴き逃さないようにより集中する。	10	2	4	0	3.4
4)聞こえにくい時に対面授業のように近づくことができない。(反転)	2	2	6	6	2.0
5)周りの視線が気にならず、発言・発表・質問がしやすい。	8	4	1	3	3.1
6)リラックスして授業に参加できる。	12	2	2	0	3.6
7)雰囲気が伝わりにくい時がある。(反転)	2	4	8	2	2.6
8)学習者のモチベーションや自発性がより重要になる。	12	2	2	0	3.6
9)ネットリテラシーが向上した。	9	4	3	0	3.4
10)大学に行かなくても学ぶことができると気づいた。	11	2	2	1	3.4
11)大学以外の他のネットを使った学習への興味が増えた。	8	3	4	1	3.1

りの視線が気にならず、発言・発表・質問がしやすい。」については、「学習者のモチベーションや自発性がより重要になる。」と関連して、興味を持てるように工夫されたオンライン授業においてはとても集中でき、質問もしやすく、大きな効果が期待できる反面、逆に興味を持っていないオンライン授業においては集中力や授業への積極的参加がかなり困難な評価を下しているように考えられる。

さらに、このような国際合同授業等で「ネットリテラシーが向上した。」「大学に行かなくても学ぶことに気づいた。」「大学以外の他のネットを使った学習への興味が増えた。」が平均で 3 を超えるなどオンライン授業を通して新しい学び方の広がりについて肯定的に考えていることが判明した。

表3にオンデマンドと比べたオンライン授業の長所・短所についてのアンケート結果を示す。

「発表・質問等ができる。」、「他の人からの意見等も聞ける。」、「話し合いによって新しい気づきが生まれる。」、「授業に対して積極的にかかわろうとする。」に対する平均点(賛同率)が高く、それらに対して「Zoom 授業の録画を

表3 オンデマンドと比べたオンライン授業の長所・短所

	4	3	2	1	平均
1)発表・質問等ができる。	12	2	2	0	3.6
2)他の人からの意見等も聞ける。	14	2	0	0	3.9
3)話し合いによって新しい気づきが生まれる。	12	3	0	1	3.6
4)授業に対して積極的にかかわろうとする。	10	5	1	0	3.6
5)周囲から見られているため、モチベーションをたもちやすい。	7	5	4	0	3.2
6)時間が決まっているので大変だ。(反転)	5	4	3	4	2.6
7)Zoom授業の録画を見直すまで聞き漏らした時や分かりにくい時にすぐに繰り返し再生や一時停止できないため不便だ。(反転)	2	5	5	4	2.3

見直すまで聞き漏らした時や分かりにくい時にすぐに繰り返し再生や一時停止できないのは不便だ。」(数値は反転)、「時間が決まっているので大変だ。」(数値は反転)、「周囲から見られているためモチベーションをたもちやすい。」については比較的平均点が低くなっている。

これらのことからオンライン授業の双方向性を生かしながら、かつオンデマンド授業の長所も取り入れるため、オンラインの授業の後にその録画を学生が見られるようにして何度も見直しができるように工夫した。

さらに、学生は Zoom の双方向性やリアルな雰囲気から感情に及ぶ影響を感じとることができる Zoom による授業の能力の高さを次のように述べている。

「普段なら中国まで行かないと中国の方々とは会話をする事が出来ないが今回 Zoom を通して世界の人と通じる事で、実際に自分の耳で本場の中国語を聞くことで中国にいる気分を味わう事が出来、通訳を通して中国の人とコミュニケーションをとる事が出来たことである。ただ一方的に中国の人の話しを聞くだけなら今の時代、スマートフォンを使えばすぐに見ることが可能であるが、自分と相手の考えの違いについて知る事が出来ない。しかし今回のように、しっかりと話しの内容を理解しその意味を共有し合い対話をすることで、自分の疑問に思っている事の答えを聞くことで始めて知る事が出来た事実や、色々な人の質問から中国と日本の文化や伝統の大きな違いを肌で感じ学ぶ事も出来、驚かされることも多くあった。このように、多くの対話から心からの感動や驚き、実際に日本と中国の大きな違いを肌で感じる事が出来たからであると私は思う。」

「今回 Zoom を使った国際合同授業を通して実際に会話してみると全然話しやすく、中国の教授や院生さんの雰囲気もとても良くて、リラックスして会話することが出来たのと、皆さんの表情がとてもやさしくてこわばらずに話せたことと、気軽に中国の大学入試制度のことや小・中・高校入試のことを教えてくれたし、入試制度で日本と中国を比べた時に、少し似ているところもあったので、親近感がわきました。また、Zoom を使って授業をすることで中国の方を身近に感じる事が出来て、その人の考え方や表情を実際に感じる事が出来ました。」

「中国に対しては(おそらく中国に限った話ではないが)ニュースで見た情報や教科書で見た情報しか知らなかったのが遠い存在だったが、今回実際中国の方からのお話を聞いて初めて色々な情報を知り、大きくとは言えないが身近に感じる事が出来たから。中国での学習制度について聞いてみると日本と共通していたり、似通っていたものもあったので親近感を感じられたから。また日本とは異なった苦勞の面が垣間見え、共感することが出来たから。そして、Zoom の授業ということ

で、距離を感じることなくリアルタイムでレスポンスを得ることが出来たのは大きかったのではないかと思った。実際に会って話し合うことは困難であったり、文面だけでは伝わらないことも分かりやすく伝わったからだと思う。」

表 4 国際合同授業の意義を感じたか？

最後に国際合同授業の意義を感じたかについてのアンケート

	4	3	2	1	平均
中国との国際合同授業は、あなたにとって意義がありましたか？	13	3	0	0	3.8

結果を表 4 に示す。4 が 13 人で、3 が 3 人と賛同率が大変高く、次のように中国に直接行って調べてみたいと書いた学生も見られた。これらから強く意義を感じていると考えられる。

「私は、別の国の人もかかわってみたいと思っていたため、良い経験となった。私は、日本のことも全て知っているわけではないため、外国のことはもっと知らない。そのため、私にとって新しく知ることができた良い時間であったと思う。私は、調べたりすることよりも可能な限り直接人からお話を聞いたりする方が好きなことに加え、理解しやすいと感じているため、この授業は大変意義のあった授業であると思う。また、中国に対する印象も変わり、私が行って見たかった国際交流もできたため、本当に合同授業に参加して良かったと思っている。教育の面以外にも中国の様々なことを知りたいと思えるきっかけとなった。もし、また機会があればお話してみたい。そして、コロナが収まったら直接会ってたくさん質問してみたい。」

「今回の授業では今まで関わったことのない中国人の方々との交流をすることでまた一つ他国のことを自分の知識の一つにできたと思います。今回の授業前はどのようなことを話せば良いのか、言いたいことまたおっしゃっていることがしっかりと伝わるのか、という大きな疑問がありました。しかし、こちらの質問一つ一つに丁寧に答えてくださったり、分かりやすく説明してくださったりしてくれたのでとても有意義な授業が出来たと思います。また、今回は主に教育の事でしたがあまり知らない中国の現在の国の様子が垣間見ることが出来たと思います。今まで知らなかった情報が多かったのでとても勉強になったので意義のある授業を受けることができました。」

また、日本側の学生は、中国のことが分からず、日本と中国のどこが違うのか聞こうとしたものの、中国側の院生も日本側のことをそこまで詳しくは知らないため、比較を質問されてもなかなか答えにくかったが、日本の大学を卒業して中国の大学院に進学した院生(B4)が交通整理してくれたおかげで、日中の状況が、細かい部分まで正確に比較できた。さらに以下の学生は、上記のことができた感謝とともに中国への留学にも興味を持ったと授業後に語る程の大きな影響があった。

「今回聞いたことは今の世の中ですと調べれば何かしらの答えは出てくるのかもしれませんが、実際に自分の疑問を質問するという行為によってよりリアルなことを聴くことができ考えることができるようになったと思います。今回は中国の学生さんだけではなく中国に留学した学生さんの話を聞けたということがあり、もっと幅広いことが聞けて面白かったです。このことから相互関係のみで交流をすることもいいのですが第三者的な立場の人がいることによってさらに交流の内容の幅が広がるため、交流の中に様々な立場の人がいることはとてもいいなと思いました。正直このような交流はお互いが言語を理解し交流をした方がとても効果があると感じました。以上のことから私にとって色々考えることができたため意義があったと思います。」

一方、中国人院生が以前感じた日本の印象は、次のように良い点と悪い点の両方あるという。

1. 科学技術や工業が発展し、東芝、ソニー、トヨタ等世界でも知名度のあるブランドが多くある。
2. 日本人は礼儀正しい。周りの日本の学生は礼儀正しく、友好的で賢くユニークで関わりやすい。
3. 景色がきれい。清水寺、金閣寺、姫路城、富士山等、多くの観光スポットがある。
4. 日本人はサブカルチャーを特に好むという印象。授業や映画・ドラマで感じた。
5. 日本人は細かいことに注目し、辛抱強いが、冷たい人もいる。

しかし、授業後には、中国の院生から「日本の先生と学生は非常に友好的であり、様々な課題は、日中両国に共通のものもあり、また、それぞれの国に見習うべき点があり、交流や協力を深めることで解決する必要があると感じた。時間がもっと欲しい。」と言われた。

さらに、中国の院生の代表(B1)から「日中国際合同授業は非常に意義があると思う。理由は、

- ①日中の大学生間において相互理解を進めることができる。
- ②日本の国の実情に対する認識を深めることができ、自分の研究の関心を広げることができる。
- ③今回は良好なスタート地点であり、今後多様な活動をするうえで有益な経験をもたらす。」

と聞き、広島国際大学の学生も中国の大学院生達も同感で多くの参加者がうなずいていた。今後、さらに、他の授業も含めて、国際合同授業を増やしてお互いの国の状況の深い理解と協力することの価値を多く感じることでより良い方法を見つけていきたいと述べている。

#### 4. まとめ

①中国人の院生も「中国では、競争が大変激しく、18年間勉強することに集中していた。将来を考えずにいたので大学入試の点数を見て親の指導がないと進路が決められない学生もたくさんいる。」「田舎の出稼ぎ労働者の親は口出ししないが、親の面子や誇りのために頑張っている。一方、男女格差と思うほど考え方が異なり、親は、妹に対しては、普通の学校でいい、幸せならどこでもいいと考えている。」「都市部と農村部で大きく違う。都市部には、全体的には就職まで考える教育ママが多いが、逆に忙しすぎて放任の親もいる。農村部は子供の好きなようにという親が多い。」「今は大学入試が1回のみで決まるので2回やってよい方を採用してほしい。高校の成績は入れない方がいい。各学校、各先生、親の力等公平に学校の成績を入れることは難しい。」等入試制度を含む教育の現状やその背景となる人々の暮らしを含めて、日中とも本文中の下線部分のように本音で語り合い、今回の話し合いのすべての分野で我々の当初の想定を超えるほどの質疑が時間を延長して行われた。

②「中国に対して親近感が増した。」のアンケートでは、「そう思う」が14名、「少しそう思う」が2名と大変大きな変化と考えられる。中国出身の院生(3名)も全員日本に対して親近感が増したと答えており、本文中の波下線部分からも日中相互の親近感も強まったと考えられる。

もともと大学教員同士が日本と中国の科学技術教育カリキュラムと教育方法の共同研究から始まって親しくなって、お互いの国の教育にとどまらず、戦争・国民感情や人間の生き方等様々な課題をとことん話し合ってお互いが深く理解しあった強い信頼関係があった。そのような環境の中で世の中にある様々な偏見や憶測をなくすには、さらにお互いが深く本音で話し合い、お互い

の長所や課題について話し合い続けて、お互いの理解が進むことが大切であることを学生自身も気づき始めていて、お互いが話し合いを続けたいと思っていることが最大の成果ではないかと考えている。

- ③国際合同授業中のコミュニケーションのアンケートでは Zoom を使ったオンライン授業は、「表情や動きが良く見えた。」や「雰囲気良く伝わった。」「教員や学生の声がよく聞こえた。」について多くの賛同があり、「映像や音声の操作ができた。」に 16 名中 14 名が「そう思う」と答え、「少しそう思う」が 1 名で、中国の院生の 1 人が用事でネット環境が悪い場所から参加せざるを得なかったために途中 1 回声が聞こえなくなったことを気にした 1 名以外は良好なコミュニケーションに満足していた。さらに、「外国等遠くにいてなかなか会えない人とも話ができる。」に 16 名全員が「そう思う」と答え、本文中にも「リアルタイムのレスポンスを得られた」「多くの対話から心からの感動や驚き」、「人の考え方や表情を実際に感じる事」、「肌で感じる事」が出来た等の発言に Zoom によるオンライン合同授業に対する教育効果が伺われた。
- ④合同授業の中で、お互いの国のはじめて聞いて印象が大きく変わったものもあった様々な入試制度や学区制、子供や親の意識等について中国の院生代表が述べた言葉のように多くの新しい知識を得るとともに、興味を持って話し合いを続けることでさらに深く学べるものと考えられる。
- ⑤日中双方から時間が足りず、今後とも合同授業を行いたいとのことからも、共通テーマである程度蓄積した後で合同授業を行う工夫をし、効率的に学修を深める必要がある。
- ⑥小中学校の校長先生からも国際合同授業のサポートを頼まれており、今後は、大学教員同士の強い信頼関係を基に、日本と中国、欧米の国々とも幅広く国際合同授業を小学生から大学生に至るまでできるだけ多く実施して、子供達や学生達の視野を広げ、世の中にある偏見等に惑わされず、実際に話し合うことで本物の相互信頼と協力関係、親近感を増す取り組みを行っていきたい。

## 終わりに

我々は、科研費で東アジアの小中学生の教育カリキュラムの再構築を主なテーマとして掲げて研究を進め、中国の北京師範大学をはじめ、8 つの教育大学と共同研究を行い、その中で 1・2 年目は各大学や国公立の小中学校を訪問し、対面で議論を行っていた。その後 COVID-19 の感染拡大に伴い、特に 3 年目以降は、テレビ会議で国際会議や学会等のシンポジウムが開催され、頻繁に日本語の堪能な北京師範大学の高教授の通訳で行ってきた。そのような中、お互い指導している大学生や大学院生が世界に視野を広げることで、他国の文化の深い理解とともにそれを通して自国の文化の本質的再認識が進むことのメリットを感じ、教員・学生共に教育効果を実感してきた。

今回、このような大学生同士の国際合同授業ができた最大の理由は、上記の共同研究を基にした研究者同士の深い信頼関係やこれまでの大学間の国際合同授業の教育効果の実感、および設備・機器やソフトの取り扱いの経験の蓄積等があったためと考えられる。

本授業全体の研究企画と運営・教材作成は岡田大爾と高益民が行い、中国の大学院生への質問内容の中国語への翻訳等は、三好大樹と李宗晨がそれぞれ担当し、多くの大学院生の自宅からの

Zoom 環境の整備も行った。また、本授業のアンケート結果の集計・整理は岡田寛明が、本授業の基盤となる Web 会議ソフトの選定や運営、映像の保存活用等と本論論文の査読・修正等を岡田寛明と井山慶信がそれぞれ論文の執筆を含めて担当した。

最後に、今回の国際合同授業に参加した多くの学生・大学院生の皆様には、様々な質疑応答や意見を活発に表出し、本授業の教育効果についても様々なご意見をいただいた。また、本研究は、JSPS 科研費 JP18k18676(代表岡田大爾)の助成を受けた。関係者の皆様に深く感謝申し上げる。

### 参考文献

- 1)Daiji OKADA and Takuya MATSUURA (2018): Japanese astronomy curriculum in schools and spatial cognitive ability of elementary and junior high school students. *Journal for Geometry and Graphics* Volume 22, No.1pp.137-145.
- 2)岡田大爾, 高益民, 張俊彦, 段玉山, 黄晓(2020): 北京・上海・浙江・台湾と日本の科学技術教育の比較, 日本科学教育学会全国大会発表論文集 pp.297-300.
- 3)岡田大爾, 松浦拓也, 竹野英敏, 橋本清勇(2021): 東アジアにおける児童・生徒の資質・能力を高める科学技術教育カリキュラム, 日本科学教育学会全国大会発表論文集 pp.127-130.
- 4)広島国際大学 HP「岡田大爾教授が中国の浙江師範大学で招待講演を行いました」とれたてヒロコク便 <http://www.hirokoku-u.ac.jp/hirokokubin?p=16807>(2021年12月27日閲覧).
- 5)広島国際大学 HP「中国大学院生とオンライン交流 広島国際大生」とれたてヒロコク便 <http://www.hirokoku-u.ac.jp/hirokokubin?p=17609>(2021年12月27日閲覧).